

さわらび

2020. 7. 20 No. 15 文責：大塚

「with コロナ」の1学期を振り返って

今年の1学期は、4月7日に始業式をして4日間登校しただけで、5月10日まで休校でした。新型コロナウイルス感染症という、未知の感染症のため、毎日の暮らしや学校生活、仕事をはじめとして、余暇の過ごし方、休日の過ごし方まで変えざるを得ない状況になりました。まだ、治療薬もワクチンもありません。

そんな中で、「with コロナ」という言葉も生まれているように、各学校や各職場、各店舗、そして各自が、感染しないように気をつけて生活すること、「手洗い、マスク、人との距離」などを意識しながら、コロナとともに生きる手立てが求められています。

また、学校が休校中の4月には、高知県内でも感染者が増えて、その感染者に対する様々な人権侵害、傷つけるような言葉やデマが飛び交いました。

みんなが教室で読んで一緒に考えてくれた、宿毛市の介護老人保健施設「ぎんなん荘」の西野さん。病気の症状とともに、「ネット上のデマ、うわさ」「自分の周りの人への偏見」に苦しめられたことを告白しています。

誰もがウイルスには感染したくありませんが、誰にでも起こりうる可能性があります。新型コロナウイルス感染症に関連した誤った情報や不確かな情報に基づく不当な差別、いじめ等の人権侵害は絶対許されません。

大事なことは、普段から考えていること、学んでいることです。防災でも、人を大事にするための人権教育でも、普段から関心を持って知ろうとしていること、自分のこととして考えていることが一番大切なことだと思います。

蕨岡マップの作成途中ですが、7月10日（金）に四万十市観光協会の職員の方に来ていただいて、観光マップ作りの視点からアドバイスをいただきました。

<おもなアドバイス>

- タイトルの読みやすい工夫を。
- 歴史的なことなどとても詳しくていねいに調べてまとめている。観光的には楽しいことも大事なので、お祭りや地域の人との関わりなどもよいと思う。
- 地元の中学生在が「絶対ええよ」と言う場所だから、「ええにきまっちゃう」という説得力がある。
- 思いが伝わるのが大事。



はるかのひまわり交流

～全国各地の取組について聞きました～



7月16日（木）、「はるかのひまわり」の事務局をしている、松島俊哉さんに来校していただいて交流しました。本校の「はるかのひまわり」の取組は、まだ2年目ですが、松島さんから

「はるかのひまわり」への思いや全国の様子を伝えていただきました。

○最初に「はるかのひまわり」を始めた、藤野芳雄さんのこと。いつも茶色の革ジャンを着て講演していた。はるかちゃんを助け出せなかった日に着ていたものだろう。

○松島さんが藤野さんからいただいた10粒の種が、今につながっている。阪神淡路大震災で支えてもらったことを思い出して「人は心で支援できる」と、東日本大震災のときに被災地へ種を届けた。それが広がって、今、三陸ひまわりロードに……。



※記念写真は2階のベランダから撮影。現在、ヒマワリの背丈が3mを超えたものもあります。

始業式

2学期の始業式は、8月24日（月）です。持ち物、時間割等を確認しておきましょう。

なお、この日は南極越冬隊員の方を迎えての出前授業として、「南極クラス」を実施予定でしたが、10月23日（金）に延期することになりました。講師の方が、ミサワホームの社員で東京から来られるので、新型コロナウイルスの東京都の感染状況等を考慮して、企画してくれている学校生協高知支部から連絡がありました。

「2万年前の氷」「1人1人仕事が違う30人の共同生活」等、私たちも楽しみにしていたので残念ですが、状況を見ながら10月の開催を準備したいと思います。

藤棚の撤去について（お知らせ）

本校の校庭南側の藤棚は、支えている鉄骨の老朽化が激しく、非常に危険な状態になっています。そのため、近々、藤棚と藤の木を撤去することといたしました。ここは、長い歴史の中で弁当を広げての憩いの場であったりと、卒業生の皆様にとってはいろいろな思い出のある場所ではなかろうかと思いますが、生徒・教職員や通行される皆様の安全のためにと、ご理解いただきますようお願いいたします。